

## 次世代火山研究者育成プログラム 発展コース受講生便覧 (2019年度)

本プログラムは、基礎コース、応用コース、および発展コースに分けられている。本便覧は、発展コースの受講生を対象とする。発展コースには、高度な火山研究を実施する能力を習得するとともに、火山防災や火山監視技術の知見を深める授業科目が、3年間で履修できるように用意されている。下記第1項の授業科目を第2項の方法で履修し、第3項にある各コースの修了要件を満たした受講生に、コース修了が認定される。本便覧は、2019年度から本プログラムの発展コースに参加する受講生に適用される。

### 1. 授業科目

#### A. コンソーシアム参加機関・協力機関の大学で開講されている授業科目

- ・地球物理学、地質・岩石学、地球化学、防災学、自然災害科学に関連する大学院博士課程(それに相当する課程)の学生対象の授業。対象とする授業科目は別紙を参照のこと。
- ・そのほか、人材育成運営委員会(「7. 人材育成運営委員会」参照)が認める各大学で開講される大学院博士課程の学生対象の授業。

※単位数は、各大学の講義に付与されている単位数に従う。

#### B. コンソーシアム等が開講する授業科目

##### ・火山学特別実習

- a. 学協会等が提供する巡検等でコンソーシアムが認めるもの
- b. 「次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト」の次世代火山研究推進事業が実施する観測・調査

※単位数 原則 0.5 単位/日 (1回の演習に対して最大 2 単位まで)

##### ・海外特別研修

国外の火山等において火山学に関する実習・研修を行う。

※単位数 2 単位

##### ・火山学特別セミナー

- a. 最新の火山学研究の分野
- b. 工学・農学等の火山計測、火山防災に関する分野
- c. 人文・社会科学等の自然災害に関する分野
- d. 火山監視の業務に関する分野
- e. そのほか、火山に関する分野

※単位数 原則 0.5 単位/日

##### ・火山研究特別研修

国内外の研究者による最先端の研究に関する講演を聴講するとともに、受講生自身が進めている研究を口頭あるいはポスター発表する。2 単位。

#### ・火山防災特別セミナー

国の機関や地方自治体等で実施されている火山防災・火山活動監視の業務に関する内容を学ぶ。2単位。

#### C. 学会発表

火山学に関する研究を、日本地球惑星科学連合、それに加盟する学会の定期学術大会(学会)、または IAVCEI 主催あるいは共催の学会等において、筆頭著者として2回発表する。1回1単位。

### 2. 履修方法

#### A. コンソーシアム参加機関・協力機関の大学で開講されている授業科目

- ・所属する大学の授業は、各大学の履修方法に従う。
- ・他大学の授業は、授業を開講する大学の履修方法に従う。
- ・履修した授業の単位を取得した後、事務局に成績証明書等を送付する。

#### B. コンソーシアム等が開講する授業科目

- ・コンソーシアムから通知される開講科目について、履修希望を事務局に連絡する。  
履修希望調査は、原則、4月～9月開講の授業科目は4月頃、10月～3月開講の授業科目は9月頃に行われる。臨時に授業科目が開講される場合は、事務局から随時連絡する。
- ・履修希望調査をもとに事務局で調整の上、履修できる授業科目は決定される。
- ・単位は成績をもとに授業担当教員より付与される。

#### C. 学会発表

- ・発表タイトル、発表者名、学会名を事務局に提出する。

### 3. 修了要件

発展コースの修了は以下の要件を満たしたものとする。なお、原則として、3年以内(2022年3月まで)に、総単位数27以上を取得する必要がある。その他の要件を下記に記す。

- ・コンソーシアム等が開講する授業科目(上記B項内)から合計5単位以上
- ・社会科学分野の単位1単位以上
- ・学会発表(必修)2単位以上

(注) 複数の分野の内容からなる授業については、講義内容に応じて単位数を分割する。

#### 4. 事務局

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3

東北大学大学院理学研究科 次世代火山研究者育成コンソーシアム事務局

電話 022-795-6522

E-mail: [kazan-edu\\_at\\_grp.tohoku.ac.jp](mailto:kazan-edu_at_grp.tohoku.ac.jp)

(注) \_at\_は@に変更して利用のこと。

#### 5. 人材育成運営委員会

コンソーシアム全体の運営の責任主体として、コンソーシアムに参画する機関の担当責任者等からなる組織。本プログラムの実施方法及び体制、修了認定及び修了証明書の交付に関する事項等を決定する。

#### 備考

授業科目	目的
A.参加機関・協力機関の大学の授業	地球物理学、地質・岩石学、地球化学等の高度な専門知識を身につける。火山研究の現状と動向を把握し、高度な研究実践能力を身につける。
B.コンソーシアム等が開講する授業科目	<ul style="list-style-type: none"><li>・火山学特別実習 国内外の火山で行われる実習や最先端研究を支える観測等に参加し、高度な観測調査・研究実践能力を身につける。</li><li>・海外特別研修 海外で行われている火山観測や火山防災などに関する実習や研修を受け、国際的な視野を広げる。</li><li>・火山学特別セミナー 火山研究の多様な分野の知見を得る。また、自然災害に関する社会科学の基礎を学び、火山研究の社会での活用方法を考える。</li><li>・火山研究特別研修 国内外で活躍する火山研究者の最先端研究を理解し、災害の軽減に貢献する火山研究の方向性を考える。また、自身の研究の紹介と質疑応答を通し、研究の問題点と改良方法を考える。</li><li>・火山防災特別セミナー 国の機関・地方自治体で火山防災や監視業務を担う職員と議論し火山防災施策の現状を把握するとともに、災害軽減を図る効果的な方法を考察する。</li></ul>

C.学会発表	研究成果を発表し、他の研究者による意見等をもとに、今後の自身の研究に生かす。
--------	--

(別紙)

A.コンソーシアム参加機関・協力機関の大学で開講されている授業科目

原則として、下記の大学院の各専攻で開講されている、地球物理学、地質・岩石学、地球化学、防災学、自然災害科学に関連する大学院博士課程（それに相当する課程）の学生対象の授業。

北海道大学大学院理学研究院自然史科学専攻

東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻および地学専攻

山形大学大学院理工学研究科理学専攻地球科学分野

東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻

東京工業大学理学院地球惑星科学系および化学系

名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻

京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻および

大学院人間・環境学研究科相関環境学専攻

九州大学大学院理学府地球惑星科学専攻

鹿児島大学大学院理工学研究科地球環境科学専攻

神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻

信州大学大学院総合理工学研究科理学専攻

秋田大学大学院国際資源学研究科資源地球科学専攻および資源開発環境学専攻

広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻および大学院総合科学研究科

茨城大学大学院理工学研究科理学専攻

首都大学東京大学院都市環境科学研究科地理環境学域

早稲田大学大学院創造理工学研究科地球・環境資源理工学専攻